

うつくしさに、まじめ。

株式会社三上工作所

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目2-3  
<https://mikami-kagu.co.jp/>



## 目 次

### INDEX

うつくしさに、まじめ。	09
うつくしさを紡ぐ。	10
うつくしさをつくる。	20
MIKAMI STANDARD	26
うつくしさを提案する。	38
うつくしさを語る。	44



04



05





## うつくしさに、まじめ。

三上工作所の仕事は、うつくしい。

それは、家具づくりをする上で細かいところまで  
職人たちの技術を駆使して仕上げていることはもちろん、  
家具をつくる前後にも、とことん向き合っているからです。

家具をつくる前に、どのような家具がふさわしいのか、  
お客様のご要望にお応えできるよう、会話を重ね、提案させていただきます。  
また、家具をつかった後に、空間も含めてうつくしく見えるよう  
最後の設置までこだわります。

つくることだけではなく、提案から設置まで、  
工程に関わる全てを三上工作所のメンバーがまじめに向き合うことで、  
さまざまな方から評価されている「うつくしさ」は生まれています。

1

うつくしさを紡ぐ。

船舶家具づくりから始まった三上工作所。現在に至るまで、さまざまな家具を手掛ける中で技術の継承を繰り返し、常に丁寧かつ繊細な仕事をしてきました。それは一朝一夕ではなく、長い年月紡いできた三上工作所が大切にしていることを一人ひとりが意識しているからだと言えます。





## 三上工作所のうつくしさは 舶来由来家具。

三上工作所のものづくりのルーツは、船舶家具です。1868年の神戸港開港に伴い、神戸の文化が多様化しました。明治初期、四国にある塩飽諸島から出稼ぎに来た船大工の真木徳助が現在の神戸市中央区加納町あたりに製作所を設け、木造船建造の技術を活かし、外国人から依頼された洋家具の修理などを行なながら、家具づくりに携わったことが洋家具の製作に

大きく影響していたことが伺えます。三上工作所の創設者・三上一夫は、その真木徳助の弟子の一人であり、同時に私たちの歴史はここから始まりました。船舶家具は船の上という不安定な環境で使用するため堅牢性はもちろん、船舶家具ならではの曲面を生み出す技術など、現在の三上工作所のうつくしさを裏付ける技術をここで習得しました。



## 舶来家具から洋家具へ。

時代は流れ、船舶家具仕事の需要が減り、神戸ではいち早く西洋式の生活が取り入れられ、一般家庭で洋家具を用いた椅子式の生活が浸透してきました。三上工作所もこのタイミングで船舶家具で培った技術を活かし、本格的に家具製作に舵を切りました。船舶家具から始まったからこそ、通常の家具よりも堅牢で重厚な、うつくしいデザインに仕上げることができます。



## 三上工作所がうつくしい家具を つくれる理由とプロセスについて。

船舶家具の技術とうつくしさを紡ぎ、神戸洋家具を手掛けた三上工作所。その特長は製作だけを請け負うのではなく、お客様とのヒアリングをはじめ、家具を設置するまでに関わる一人ひとりが誇りを持って、まじめに向き合っているからです。



### STEP.1 ヒアリング

お客様がどのような家具をどのような場所へ設置されるのかご要望をお聞きします。単なるイメージだけではなく、想いや未来の話も伺い、また実際に使用する材料を見ながら現場検証を行い、家具を通して想像を超える空間を目指します。

#### DETAIL 現場検証

できる限りヒアリングの段階で、現場検証を行っています。実際の設置場所を確認することで、家具の機能性を高め、仕上がりをよりうつくしくするために必要な工程です。

#### DETAIL 試作品製作

イメージが掴みにくい仕様に関して、部分的な試作品を製作し、確認していただきます。職人が実際につくれるかどうかの検証と、お客様との認識合せを行うためです。

### STEP.2 提案

ヒアリングや現場検証を行ない、事前に作った試作品を見て話し、素材のサンプルを確認してもらうことで、お客様との目線がしっかりと合う状態をつくり、具体的なご提案が可能になります。

#### DETAIL 2回目の現場検証

提案がまとまってきた段階で、2回目の現場検証を実施。ここでは家具の細かい寸法の最終確認や搬入する時の方法を確認します。例えば搬入に関しては通路が狭い場合、家具や部材をいくつかのパーツに分けて持っていく必要があります。分割すると継ぎ目が見えてしまうので、製作段階で工夫してうつくしく見えるようにするのです。また現場でどのような道具や作業が必要かも併せて確認し、図面だけではなく搬入までを見越した製作を行うのが三上工作所の特長です。



### STEP.3 製作

三上工作所の工場(こうば)で、家具の製作、検査・検品をワンセットの流れで行っています。

#### DETAIL 自社検査

ベストな機能性を持たせているか、細部の仕上がりは完璧か、搬入時にうつくしさを保ったまま現地に納めることがきできるのか。これらをクリアすることで、高品質な家具をお届けします。

#### DETAIL 検品

ご要望があれば、お客様も検品工程に立ち会っていただくことができます。実際に完成直前のものをご覧いただき、納品前にご確認いただけます。



### STEP.4 設置

設置は家具製作において非常に重要です。家具の設置空間・動線・周辺の環境を綿密にシミュレーションし、どのような状態がベストに見えるのかにこだわっています。搬入設置時には家具を手がけた職人が責任を持って作業を行います。

### STEP.5 アフターフォロー

長年にわたりご使用いただけるよう、塗装直し、布地の張り替えなど色々とアドバイスさせていただきます。



本当のうつくしさとは、  
お客様との関係性を紡ぐもの。

三上工作所は、お客様とのおつきあいが長くなるのも特長の一つです。以前にオーダーを受けたお客様からリフォームをする際に新たな家具のオーダーを受けることも少なくありません。また、世代を超えてご一緒することもあります。三上工作所の家具を通して、うつくしい家具や空間に触れていただき、お客様との関係性を紡いでいます。

2

うつくしさをつくる。

三上工作所では、船舶由来の技術を「MIKAMI STANDARD」としてブラッシュアップしています。MIKAMI STANDARDをベースに、職人一人ひとりは探究と鍛錬を欠かしません。ものづくりの目線だけではなく、お客様の意図を汲み取った担当者の目線を入れることで、よりよいデザインと機能性を実現しています。





三上工作所が届けているのは、  
お客様のためだけの家具。

三上工作所のものづくりには、各工程で細かいこだわりを満たすための基準があります。仮に同じデザインパターンであっても、それぞれお客様が違うように、家具を納める空間も違います。なので、全てがゼロから生み出される特別なものに。量産品ではなく、お客様のためだけに生まれる別注家具をお届けしています。



# 三上工作所のものづくりを裏付ける MIKAMI STANDARD

船舶家具由来であり、過去には海外の要人の家具も手がけた三上工作所の技術力。高品質な家具をつくるためには、一つひとつの工程を全て高い基準で満たす必要があります。三上工作所の職人たちが日々当たり前に行っている、ハイクラスな基準が「MIKAMI STANDARD」です。



## 木取り

CUTTING

木材の強度とうつくしさを見抜く。

高品質な家具づくりは、木材選びからはじまります。「木取り工(きどりこう)」と呼ばれる専門の職人が、家具の耐久性を決める強度と適切なコストを両立するために、無駄なく、かつどこから見ても木目の通った位置取りを行います。木取り工には、強度とうつくしさを見抜く目が必要です。



## 組 み 方

継ぎ目が見えない工夫を施す。

壁面家具や大型家具などは、通常、製作や搬入先の状況によって、いくつかのパーツに分けて製作するので継ぎ目が見えてしまいます。しかし三上工作所の家具は、一体成形のうつくしさを実現するため「組み方」にこだわっているのです。例えば、2枚の板を合わせたときに1枚の板のように見えるよう現場で加工したり、さまざまな工夫を施しています。もちろん、長く使い続けるための強度も忘れていません。

JOINERY



## 細 部

無駄な重なりや影を生まない。

家具は、あらゆる板や面状の部材が重なり合って構成されています。垂直や水平方向に重なり合った時に1mmにも満たない無駄な重なりや影が生まれてしまい、うつくしさに影響を与えかねません。「神は細部に宿る」という言葉の通り、木口と呼ばれる板の端部や細部の仕上げにこだわるのが、三上工作所の「細部」です。

DETAILS



## 芯材

何十年も存在できる強度を生む。

三上工作所の家具は重いと言われることもあります。それは、家具の構造上見えない所まで妥協を許さないからです。構造体は板の中に隠れ、完成すると見えません。その構造体をしっかりと組み上げる時に船舶家具をつくっていた時の「芯材」を駆使します。揺れる船の上でも強度を保ち続ける構造を実現するので、何十年も変わらず空間に存在し続けることが可能です。

CORE MATERIALS



## 加工プレス

木の性格を知る。

木材は自然のものなので、環境が変わると伸び縮みします。垂直・水平を保ちつくった家具を設置後、時間が経過し扉が開きにくくなったり、棚板が浮いてしまったりといったトラブルを生み出すことも。だからこそ、板材を製作する際に必要な材料・接着剤・プレス法などを試行錯誤し、できる限り長い時間堅牢性を保てる家具をつくっています。

PRESS PROCESSING



## 留 め 方

見えない部分の、未来を見据える。

部材を留め合わせると言ってもさまざまな方法が存在します。三上工作所の家具は耐久性を最大限考慮し、ホゾ組みをしたり、ビスを使用するといった作業を行います。留める部材に対して3倍の長さのビスを使用するなど、「留め方」にこだわる独自の基準を設け、隠れて見えなくなる部分を考えるからこそ、何十年先も使っていただくことが可能です。

FASTENING



## 貼 り 方

うつくしさに差をつける。

1枚の板は上下・左右・前後の計6面で構成されています。その板の特長づける木目をどの面から貼り付けるかによって、うつくしさに差が生まれるので。三上工作所がこだわる「貼り方」は人の視線を計算し、どの面から貼ると一番うつくしく仕上がるのかを計算し尽されています。

PASTING



## 面取り

視線の方向性を計算し、75度に削る。

仕上がった板の角をよく見ると、「面取り」と呼ばれる角削り加工を施しています。一般的には角に対して45度が多いのですが、三上工作所の家具は視線の方向性を計算し、角を75度に面取りしています。75度は、極限まで角をシャープにうつくしく見せるため、削る角度一つでうつくしさも変わります。

CHAMFERING



## 曲面

船舶由来の職人技でつくり上げる。

曲面の製作は難しいのですが、現在のコンピューター工作機械を活用すれば製作は可能です。しかし、数字では表せない“やさしさのある曲面”は平面状での計算だけではできません。実物模型を試行的に製作し、さらに微妙な曲面を職人の手の感覚でつくり上げます。このような仕事は代々受け継がれ、船舶家具をつくってきたルーツを持つ三上工作所だからこそできる技術です。

CURVED SURFACES



## MIKAMI STANDARDを 実現する職人について。

図面をそのまま再現するのではなく、強度のことや使うシーンのことを考慮した上で、最善の提案をしながら製作することが、三上工作所の職人の特長であり、強みでもあります。職人に求めることは「MIKAMI STANDARD」をベースとした技術力はもちろん、一つひとつの工程に真摯に向き合う姿勢です。お客様のことを想像しながら、家具を設置するまで丁寧かつ繊細な仕事をし続けます。

# 3

うつくしさを提案する。

うつくしい家具は技術だけで生み出されません。お客様が何を望んでいるのか、どのような空間に収まるのかを考慮し、落とし込んでいくことが重要です。お客様と職人をつなぎ、うつくしさを提案する人間が必要だと考えています。





三上工作所の付加価値として  
うつくしさを提案すること。

担当者は、お客様から情報を引き出すだけではなく、想いを汲み取り、その先を想像し図面を仕上げ、最高品質の家具をお届け出来るよう職人にもお客様の想いを伝えます。担当者一人がヒアリングから設置までを伴走しています。お客様と職人をつなぎながら家具を手掛けることが三上工作所の付加価値の一つです。



うつくしさを提案する人が  
考えていること。

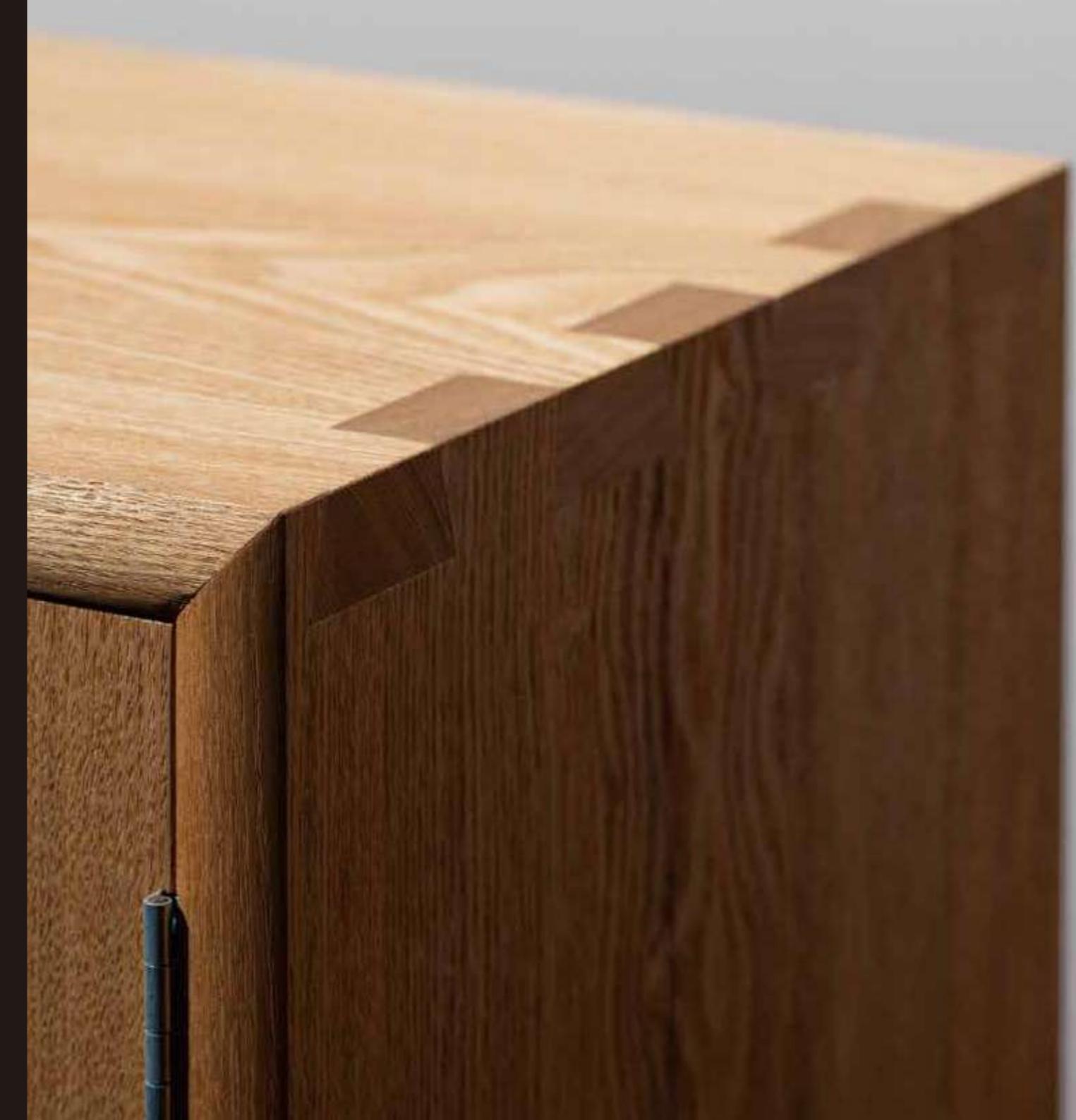
お客様のご要望を実現することと、実際に家具を設置した時の収まり具合にとてもこだわっています。初回提案時に素材サンプルを準備し、時には部分的なモックアップを製作し、お客様と同じ目線に立ちながら最良の空間をお届けできる様に心がけています。



# 4

## うつくしさを語る。

良きものは、時に雄弁です。もの自身が静かに語りかけてくることもある、使っている方が歴史やエピソードを熱く語ることもあります。今回、三上工作所を選んでいただいた施設や個人宅の方にインタビューを行い、それぞれの場所でそれぞれのうつくしさを語る事例を紹介します。

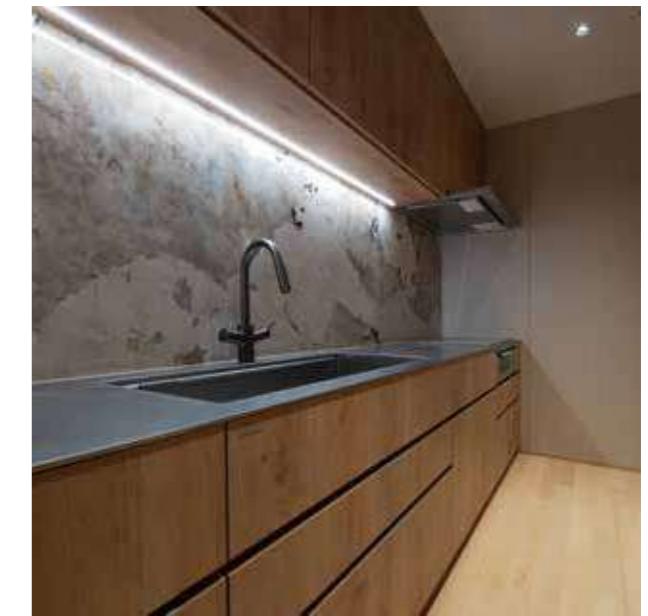
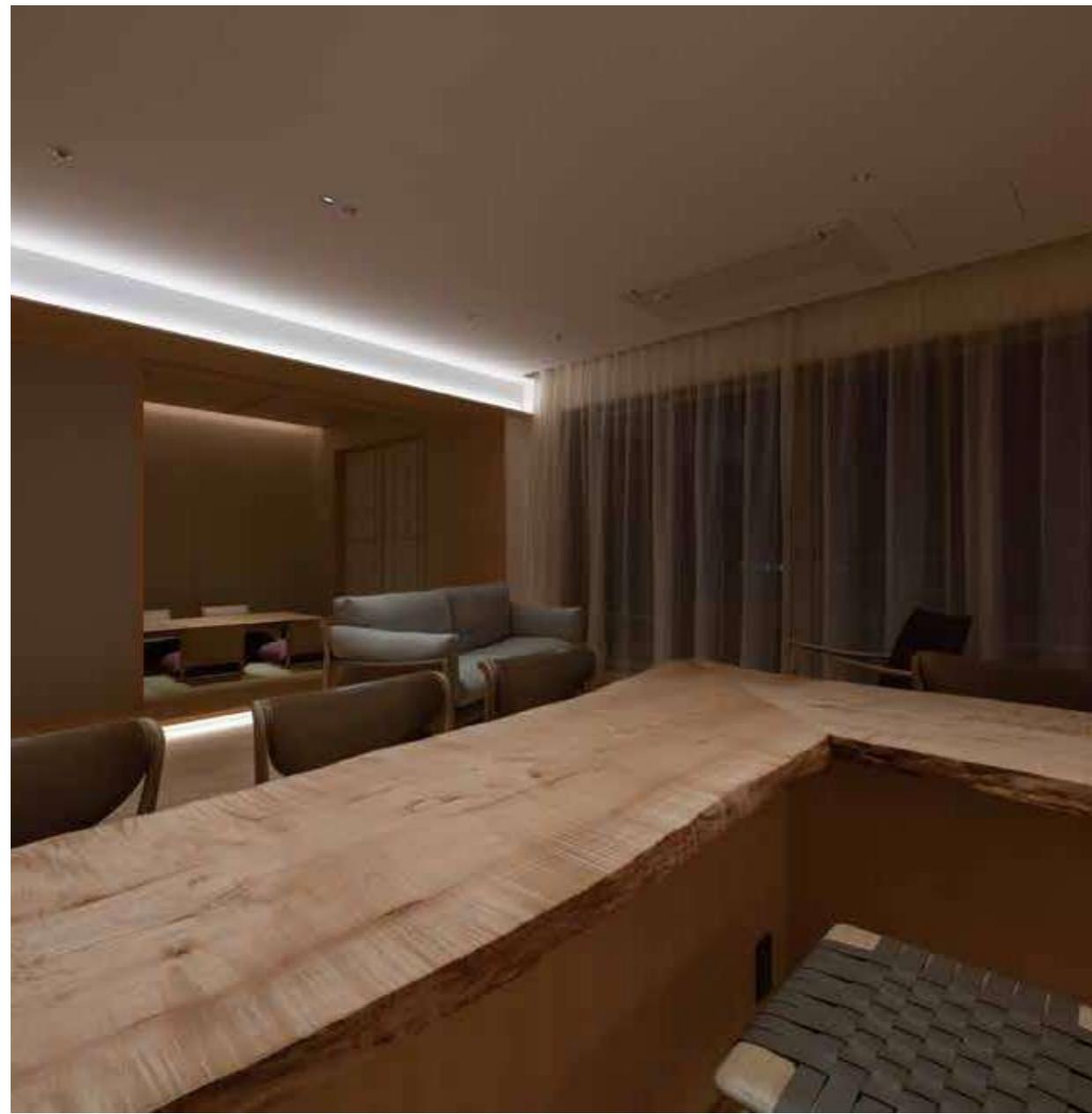




## C邸 / 内装工事全般

既存のマンションの一室を全面スケルトンにし、壁・床・天井・設備を含めて全て手掛けています。設計士の意図を汲み取り、最適な形で製作できることを評価してもらいたい、ご依頼いただきました。特にこだわったのは家具を設置する時、木材を削っていきながら調整することで壁や天井にすき間なくぴったりと納まるようにすること。うつくしい空間をつくるには、そのような細かな技を積み重ねることが必要です。C邸には、三上工作所の今まで培った技術全てが随所に散りばめられています。







## S邸 / 柱巻き造作台

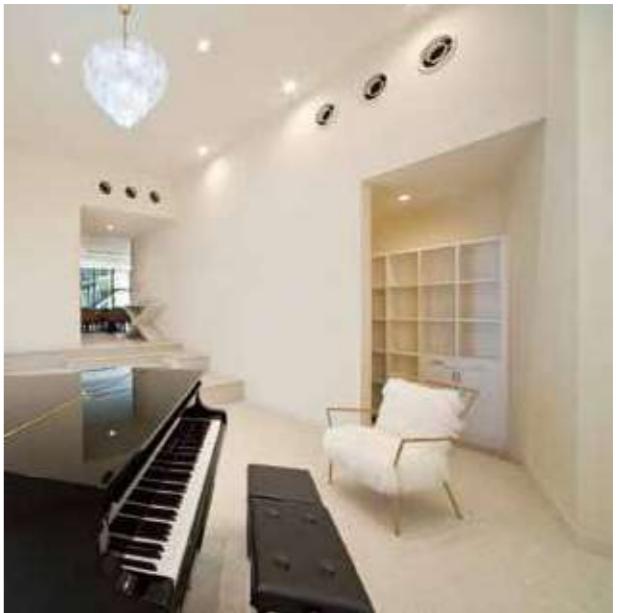
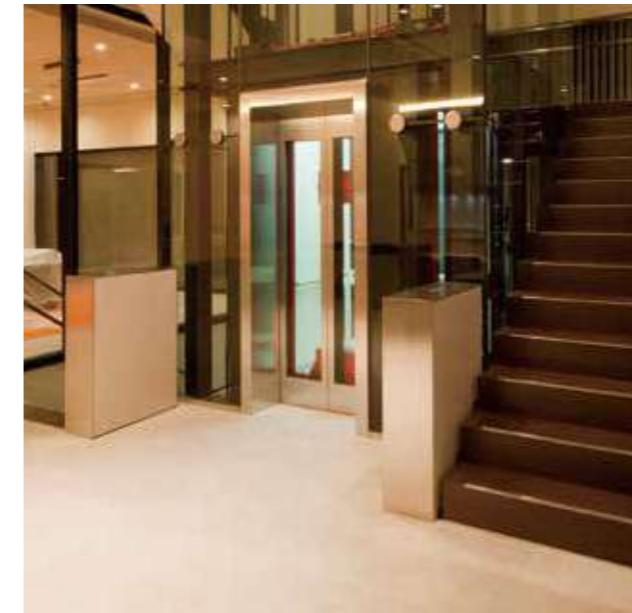
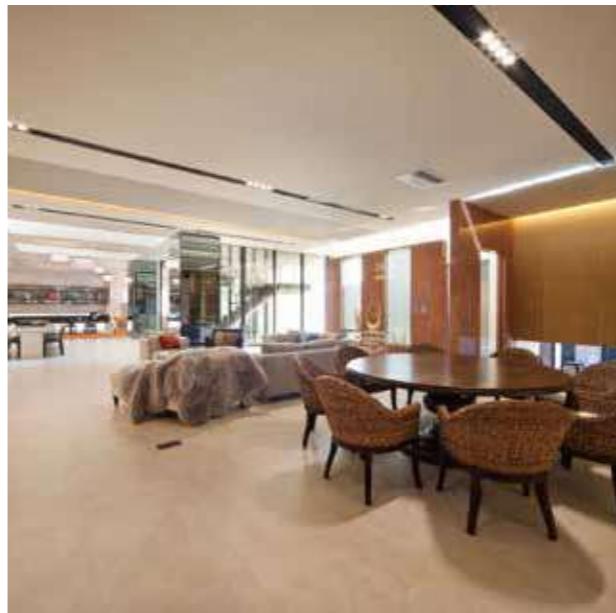
既存の円柱を活かした家具の依頼を受け、円柱と一体化するよう作り上げた作品です。実は、既存の円柱に対して家具を納めるのは至難の業。分割された家具を現場で組み立てる際、ジョイント部分が目立つと、うつくしく見えないため仕切り板の設置位置を中心から少しづらし、仕切り板と地板のジョイントラインを合わせることによって、うつくしく見えるよう工夫しました。





## T邸 / 色々な表情を見せる造作家具

三上工作所の家具はお客様のご要望、そして設計者の意図を汲み、図面に忠実に一つひとつ丁寧に製作されています。家具はそれぞれの空間に合わせた仕様で、リビングではしっかりと存在感を出し、洗面所では使い勝手や清潔感に重点を置き、中央の階段部分では強度・安全面、そして四方から見えるうつくしさを意識しました。





## コムネット株式会社 / 陳列ケース

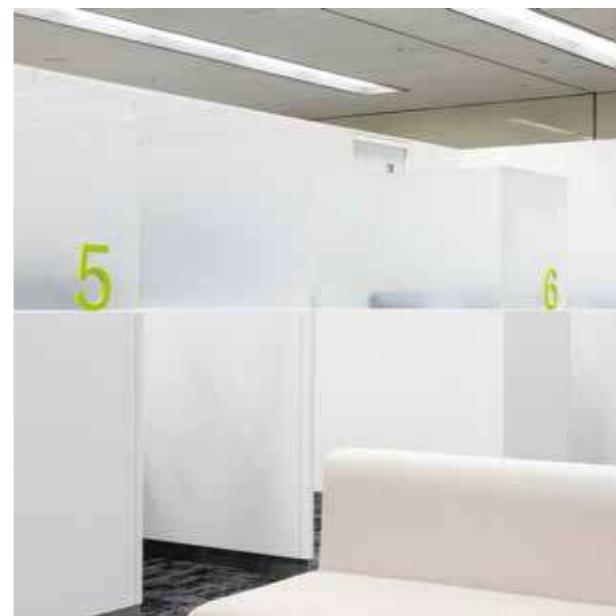
同社はレーザー加工機やレーザーカッターの販売を行っている会社です。三上工作所では、これまでの製品などを飾る陳列ケースを手掛けました。空間に合わせてケースを2台設置する上で、家具同士のわずかな隙間が生まれないよう工夫しています。また、下部にある収納部分は、重いものの出し入れがしやすくなるようキャスター式を採用しました。





## 株式会社三井住友銀行 / ロビー什器

同社のエントランスでは、自社製作の什器がお出迎えいたします。三井住友銀行とは、前身である神戸銀行時代より継続して内装や什器のご依頼をいただいています。私たちとの関係性が続いている理由。それはMIKAMI STANDARDに裏打ちされる品質の高さ、納期に合わせられること、そして自社で工場を持っていることによるメンテナンスの質やスピード感であると評価をいただいています。





## お客様に寄り添うことも、 MIKAMI STANDARD。

家具だけではなく、リフォーム全体を手がけたA邸



### 3度のお声がけは、仕事の 細やかさと確かな品質から。

ドレクセルヘリテイジの家具が合う自宅にしたい。一度目の依頼時、空間づくりの際にAさんがこだわられたことでした。ドレクセルヘリテイジの特長は、ヨーロッパの伝統的なデザインであり、また堅牢性と丁寧な仕上げ。その点も意識して、真摯に向き合った仕上がりをとても気に入っていただけたそうです。

特に気に入ったポイントが、マホガニーを採用し、暮らしの中で木の質感や経年劣化を愉しんでいただけたことでした。二度目は、マンションのリノベーションを行った時の話。全室を改修する際に施工会社から原状復旧すると約束されたそ

です。しかし、住まいに戻ってきて、イスに座った瞬間、Aさんは違和感を感じます。“空間のきめ細かさ”が修復されていなかったのです。

そこで当社にご連絡いただき、当初施工時の図面やデータを頼りに、極力再現しました。後日、施工する予定だった施工会社がお部屋を見学した時、木と木のつなぎや色の出し方などを見て唸ったそうです。

お客様の想いを汲み取り、  
良い提案をすること。

2021年、Aさんは新しいマンションへ。

前に住んでいた家を再現したいと思い、改めて三上工作所にお声がけいただきました。

マンションの床はそのまま、床を生かしつつドレクセルヘリテイジの家具の雰囲気を残すこと。また、もともとあるカウンターを活用することに。

Aさんから特に評価いただいたのは、担当者と納得するまでに合わせたことと聞きます。

「全てが私の意見通りでなく、イメージを汲み取ってプロの意見として提案してもらえて良かった」と語るAさん。

また、「違う場合は違うと言って欲しいです。組み合わせも本当に良いのか分かりません。自分が好きと似合うは別物なので、そのような提案をいただいてうれしかったです」とおっしゃっていました。

実際にそれらの要望を受け、Aさんの想いを汲み取り、カウンターを「ショーケース」として生まれ変わらせるに。前の家のようにアンティークをディスプレイできるようにし、下の扉と一体化させ、すっきり見えるように、うつくしさにもこだわりました。

イギリスのホテルよりも、  
自分の家が良いと思える理由。

Aさんの想いを汲み取り、美意識を住まいの隅々に散りばめました。例えば、リフォーム前のパウダールーム。空間の印象ですが、木の色に合わせて暗かったのを覚えています。

Aさんはガーデンっぽいのが好きであること、気持ちが明るくなるような場所にしたいとのことでしたので、その想いに応える壁紙を選びました。

またトイレも壁紙にこだわり、そこで過ごしたいくらい好きな空間になったと言います。

居心地よく自分らしく過ごせる住まいになったことで、イギリスに行くAさんが「イギリスのホテルよりも、私の家の方が全然いいですね」と語っていただけた満足いただきました。



最後に、三上工作所を他の方にどうおすすめしたいですか？とお聞きしたところ、このように答えていただきました。

「仕事の質や技術、さまざまありますが、まずは絶対的に信頼がおけるところですね。あとは丸投げではなく、一緒に考えて細かくやり取りできるところが良いと思います」。

Aさんのように、長くお付き合いしていくのも三上工作所らしさの一つです。



世代を超えて、安心感を提供し、  
関係性を築くこと。

Mさんの母親から受け継いだ家具



40年前の三上工作所の家具を、  
母親から引き継ぐということ。

「最初に三上工作所を知ったのは、母親の知人の紹介でした」と語るMさん。その知人のお住まいの玄関の壁面にステンドグラスが嵌め込まれとても印象的だったそうです。Mさんのお母様はブラウスのデザインをされており、家を新築されるときにもステンドグラスを入れるなどご自身のこだわりを徹底的に取り入れられたそうです。新築されたのは約40年前。お母様が楽しみながら大好きなデザインやこだわりを詰め込んだ空間に三上工作所の家具を加えていただきました。Mさんは更に次のように語られました。「母は雑記のような形で日記をつけていました。母が亡くなる



3、4年前のページには自身の希望が書かれており、その中の一つに三上工作所の家具はとても気に入っている事、そしてとても良い家具なので出来ればずっと使って欲しいと書かれていました。その母も亡くなり、まだ間もないのですが家具は現在住んでいるマンションとテイストが合わないので引き継ぐかどうか正直迷っています。将来的にこの家具を活かし何か別の家具を作っていただくのも良いかと考えています」

自宅とレンタルオフィスの内装も、  
きっかけは母親の推薦。

実はMさんの経営されている会社の内装も三上工作所で担当させていただきました。Mさんのお父様は機械を扱うお仕事をされていましたが、高齢になり会社を閉じることになった際、空いたオフィスを見てある方より「この場所をレンタルオフィスにし起業家の方たちに貸してみては」と提案を受け、Mさんは事業をスタートされました。この時もお母様から「三上工作所にお願いしたら安心だ」と推薦をいただき空間づくりのお手伝いをさせていただきました。その後Mさんが結婚され、ご新居の方でも内装工事などご注文

いただき、それから現在に至るまでお母様、Mさんと二代に渡り長いお付き合いをさせていただいています。

良き相談相手として、  
長きにわたり関係性を築くこと。

なぜ三上工作所に依頼されているのかをMさんにお聞きするところにお答えいただきました。

「たくさんあるのですが、やはり安心感ですね。今は通販などで購入できる安価な家具は家でも自分自身の手がけるオフィスでもサイズが合わなかったりします。自分自身手掛けているオフィスでも当然サイズが合わないので、母の代からお付き合いしている三上工作所さんだったら普段やらないことも相談に乗っていただき、何とかしてもらえそうだなと。金額でパートナーを選びたくないの、良き相談相手として三上工作所さんをこれからも大事にしていきたいですね」。

Mさんのお話の様に三上工作所も関係性を大切にし、色々な場面でお手伝い出来ればと思っています。



## 株式会社三上工作所

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目2-3  
TEL : 営業部 | 078-304-4808 工作部 | 078-304-4801  
MAIL : [info@mikami-kagu.co.jp](mailto:info@mikami-kagu.co.jp)

創業	1942年1月
事業内容	オーダー家具製作・販売 / 店舗構装 / 室内装飾 / 設計施工
許可・登録	特定建設業許可 兵庫県知事許可 建築工事業・大工工事業・内装仕上工事業 神戸環境マネジメントシステム KEMS1
工場設備	NCルーター・パネルソー・軸傾斜横切盤・フラッシュプレス・ルーター・角のみ機 縁貼機・リップソー・手押し鉋盤・自動一面鉋盤・超仕上鉋盤 他
社員	24名
有資格者	営業部 一級建築施工管理技士 / 二級建築士 / インテリアコーディネーター 福祉住環境コーディネーター 工作部 一級家具技能士
主要取引銀行	三井住友銀行 / みなど銀行 / 池田泉州銀行